

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471300422		
法人名	社会福祉法人グリーンセンター福祉会		
事業所名	グループホームグリーントピア名張		
所在地	三重県名張市東田原2745番地		
自己評価作成日	令和4年6月20日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2471300422-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 4 年 7 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた環境にあり、桜の花など季節の花が咲く庭や野菜などが採れる畑を見ながら、外気浴や散歩を楽しまれている。新型コロナウイルス感染予防対策で地域交流や併設する事業所との交流も、残念ながら中止となっている。グループホーム内で季節行事を催し、時には裏庭でガーデンパーティーを楽しんで頂いている。お誕生日には手作りケーキでお祝いをし、手作り昼食や手作りおやつは毎月お楽しみとして楽しみ喜んで頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、緑豊かな樹木に囲まれた環境の中に複合施設と共に立地している。個々の事業所とは日々連携が図られ、協力体制は築けている。ここ数年コロナ禍で行動制限や色々な計画が延期または中止になる事が多いが、利用者の笑顔を引き出せるように前向きに取り組んでいる。利用者一人ひとりに笑顔で言葉掛けをし、共感した会話を心がけている。また気分転換の為に裏庭に出て向日葵やサルスベリの花を見たり、サツマイモや枝豆などの野菜畑を見て季節を肌で感じ、体を動かしてストレスがたまらない様な工夫をしている。一人ひとりの思い出を大切に、一緒だったら出来る事を行い、その方らしい生活が出来るように、楽しいと思ってもらえるように努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示して“笑顔”“あいさつ”“言葉づかい”を念頭に、実践につなげている。グループホームのスローガンとして、手を添えて心も添えて思いやるケアを皆で心掛けている。	法人の理念を基に、事業所独自のスローガンを年間行動指針としている。利用者の健やかな生活を願い笑顔を励みに職員は日々理念の共有に心がけて手厚い介護を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染予防対策として、地域や子供たちとの交流は出来ない。	事業所内の地域交流ホールを住民に開放して地域の一員として日常的に交流していたが、ここ数年新型コロナウイルス感染症対策の為自粛している。ただ福祉専門学校の依頼で学生を受け入れて地域福祉に貢献できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策として、中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策として中止となっているが、2か月に1回書面で状況を報告させて頂いている。	事業所の報告をしたり地域の情報を頂いたり情報交換をして有意義な会議であったが、コロナウイルス感染症対策として開催が出来ていない。事業所の情報を文書で会議構成員には通知し、コロナ対策について質問・意見があり、職員間で話し合いコロナ感染防止に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防対策として、運営推進会議の報告は書面でさせて頂いているが、必要に応じて連絡を取り助言を頂いている。情報はメールで来ている。	コロナウイルス感染症予防対策で会議の開催は自粛の為オンラインで交流、意見交換や地域密着連絡協議会の研修会に参加している。コロナワクチン予防接種についての相談も迅速に出来て協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急やむを得ない事由がある時、家族に『緊急やむを得ない事由による身体拘束に関する説明書』を使用して同意を頂いている。月1回身体拘束廃止推進委員会と身体拘束適正化委員会で取り組み、各部署に文書で回覧している。	毎月の身体拘束適正化委員会で意見交換をし、ヒヤリハット・事故発生予防委員会で検討している。全職員が委員会で情報共有し、「身体拘束をしない支援」を十分に理解して利用者に寄り添った支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の委員会の中で情報交換している。年間研修計画で高齢者虐待防止研修を実施して意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者はないが、研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には文章と共に十分な説明を行い、要望や意見、疑問点などをお聞きし、ご理解と納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染予防対策として、リモート面会やガラス越しの面会となっているが、家族の要望をお聞きし、電話連絡の際にも要望をお聞きしている。入居者の方との日常会話の中で、要望をお聞きしたり察知して業務に役立っている。	コロナ禍で家族との面会自粛中でオンライン面会やガラス越し面会を工夫している。利用者とは日常会話の中で意見や要望を聞き支援に活かしている。	利用者や家族は言いにくさや遠慮がある事を踏まえて、要望や意見が聴けるような配慮や工夫が必要であることから、コロナ禍でも利用者・家族が発言できるような工夫を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝・夕の申し送りや3か月に1回のミーティングと日常会話の中で意見を交換して、よりよくするための話し合いをしている。	申し送り時や身体拘束廃止委員会、安全衛生委員会等で職員は意見が出しやすい雰囲気、積極的な意見が出ている。事業所の設備面、就業環境の整備、コロナ禍の支援等についての意見で、感染対策としてアクリル板の仕切りを設置した。年1回職員個々が自己評価をし、施設長と面談する機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得などを給与に反映させている。又、安全衛生委員会を設置して就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染予防対策で、リモート研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会において、情報交換を通じて自らのケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や入所申請には、十分な話し合いが出来るように応じて、不安な事や要望をお聞きして良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に話し合いの場を設けて、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から要望や意見を聞き、複合型施設のメリットを活かして、広い知識と視野で他のサービスも含めて、優先すべき課題やサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	終日暮らしを共にしているので、信頼関係はできている。一人一人が心穏やかに生活出来るように手を添えて心も添えて支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	リモート面会や電話連絡の際に日々の様子をお伝えしている。何かあれば、電話連絡をしている。その時に要望もお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防対策でガラス越しの面会を実施しているが、少なくなり外出の支援もできない状態が続いている。	コロナウイルス感染症対策で外出や面会も自粛中であるが、オンライン・ZOOM面会で関係継続支援をしている。十分に感染対策をし訪問理美容を再開、なじみの関係継続につなげている。友人に手紙を書き職員と一緒にポストンすることが楽しみな利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談笑しやすい場所、くつろぎやすい場所の環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者はないが、相談に応じる体制は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送りやミーティング、連絡ノートの活用で情報を共有し、意向に沿った支援をしている。	利用者に寄り添い会話をして意向を聞いたり、意思疎通が困難な利用者には家族から要望を聞いたり、日頃の様子から把握に努めている。把握した情報は申し送りノートに記録、全職員が共有し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、本人・家族・相談員より情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子観察や毎日の申し送りやミーティングなどで職員間の情報の共有を図っている。又、看護師との連携を図り一人一人にあった支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、本人と家族に要望をお聞きして担当者の意見を聞いている。本人の状態や課題・ケアについて他の職員との話し合いの場を設けている。担当者の意見を参考に3ヶ月に1回モニタリングを実施している。	各担当者が3カ月毎にモニタリング、ミーティング会議でカンファレンス・評価をし、長期目標は6ヶ月、短期目標は3カ月で計画を見直している。医師の意見は月1回の訪問診療時に、家族にはコロナ禍の為電話等で要望を聞き計画に反映し、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を個人介護記録に記入し、個人健康管理表にはバイタル測定や食事排泄を記録して情報の共有が出来るようになっていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズにあった支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防対策で、外部ボランティア・園芸福祉・地域市民センターの行事への参加の支援は中止となっている。散髪は継続して利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回嘱託医による訪問診療を受け、健康管理が出来ている。又、個々の状態に応じた専門医の受診も支援している。	契約時に利用者全員が協力医の受診を希望しており、月1回の訪問診療を受けている。看護師が協力医療機関との連携を図りながら常に健康管理がされている。専門医の受診時の送迎と付き添いも事業所で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告・相談をして健康管理と医療的な処置を行っている。又、看護師と連携を図り、24時間体制を整え緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者情報を病院に持参して家族を交えて情報交換している。入院中は病院と連絡を取り、経過の情報収集を行っている。退院時には、退院前カンファレンスに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、本人や家族の希望を聞かせて頂き、看取りの指針を定め、職員・主治医・看護師・協力機関と連携を取りながら支援することとなっている。	入居時に「終末期医療・看取りについての確認書」で「終末期の援助について事業所が出来る事とできない事」を十分に利用者や家族に説明し理解を得ている。医師が終末期と判断した時には、関係者が方針を共有して看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故予防対策委員会を中心に事故の予防・対応を職員に周知している。急変時には24時間体制で看護師と連携が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を日中想定と夜間想定で実施している。消防署と連携して助言を受けながら、訓練の充実を図っている。地域の福祉避難場所にもなっている。	「災害時マニュアル」「職員の連絡網・役割分担表」等整備されている。地域の消防署助言の下、年2回の防災訓練を実施している。水と食糧の備蓄もあり防災意識が高い。	災害時において利用者の安全確保や避難がスムーズに行えるように対応マニュアルの再確認と全職員が災害に関する危機感を持てるように机上訓練等更なる訓練実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の想いを大切に個々にあった言葉かけを心掛け、その人の目線で話をしている。おじいちゃんおばあちゃんではなくさん付けでお呼びし、なれ合いになってはいけない。	利用者に笑顔で傾聴することを心がけ、個々を十分に理解した上で人格を尊重し、日常的に本人に心地良い言葉で接している。言葉掛け時には、同じ目線で接するように心がけている。個人情報個人情報保護法に基づき適正に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や想いを傾聴して、自己決定が出来るように働きかけている。意思決定が困難な方の場合でも言葉かけはしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合による介護ではないので、一人一人の想いに想いに添った支援をしている。(起床・就寝・散歩・外気浴など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある衣類や小物を持参されてその人らしい整容が出来るように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやテーブル拭きなど出来る事をして頂いている。誕生日には一人一人誕生日ケーキを焼いている。月1回手作り昼食や手づくりおやつを楽しんで頂いている。コロナ禍でテイクアウトも利用している。	副食は法人厨房で作られているので、直接利用者が調理に参加する事は少ない。コロナ禍の為感染対策としてテーブルの配置やアクリル板を設置して会話を控える配慮をしている。テイクアウトでお寿司、誕生日のケーキづくり、月1回の手づくり昼食とおやつ作り等利用者が楽しい食事の時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況に応じて、食事形態を考慮して提供している。食事摂取量の記録もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔スポンジ・口腔ケアウェットティッシュ・歯磨き・マウスウォッシュを使用し、本人の状態に合った方法で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や行動・仕草を観察して誘導のタイミングを考慮し支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。またタイミングに合わせた声掛けをし、個々の居室のトイレに誘導して自立を促している。布おむつの利用者にもトイレでの排泄を試みている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携で排便コントロールをしている。毎朝の乳製品の飲用や体を動かす機会を作り働きかけている。オムツの方も未排便2日に1回と3日に1回トイレ排泄の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調を考慮して看護師と連携を取り、入浴の支援をしている。利用者のADLに応じて、機械浴も利用できるがコロナ禍で利用できていない。	基本週2回午前中に広い檜風呂にのんびりと入浴している。個々の体調や希望に合わせた入浴で、利用者は楽しんで入浴できている。季節感を感じるゆず湯等も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室のベッドや椅子、フロアのソファなど、好みの場所で休息できる環境に配置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は看護師が管理している。薬情はファイルに綴じており、内服薬表や薬の効能をキッチンに貼り、皆で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活や日常会話の中で楽しみを見いだして、気分転換が図れるような生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防対策で外出支援は中止となっているが、利用者の希望をお聞きしてテイクアウトを利用している。毎日の外気浴で、花を摘んだりトマトやきゅうりの収穫もしている。	コロナ感染症予防対策で遠方への外出支援は満足に出来ていないが、外気浴をかねて裏庭に出て洗濯物を干すのを手伝ったり、庭で色々な花を眺めたりとプチ外出が利用者の楽しみとなっている。ごみ捨てに職員と一緒に出かける事も生活の意欲につながっている利用者もいる。自家農園に夏野菜の収穫にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金はお預かりしているが、支払いの困難な方はほぼ全員。週に2回の移動スーパーでは欲しい物は手に取る事が出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望の時は、家族が電話に出やすい時間帯にかけさせて頂いている。手紙やハガキを書かれる方は、一緒にポストに投函しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた環境にあり、室内は明るく外の景色を見る事が出来る。季節の花等季節感を取り入れる工夫をしている。	居室兼食堂は広くて開放感があり採光もよく明るい。窓からは中庭の草花が目に入り、季節の変化を眺めることができる。コロナウイルス感染症予防の為手すりの消毒、室温・湿度の調節・定期的な換気を行い清潔な空間である。(コロナ禍の為パソコン画面と職員の聞き取で記載)	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を配置して、気の合った方たちがくつろげるようにしている。季節の花も飾っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いたり、写真や好みの置物を飾られている。安全面も考慮して心地よい空間づくりに努めている。	個々が自宅で使い慣れた家具やお気に入りの物を持ち込み本人の好みの場所に飾られ、個性ある居室で居心地よく、快適に過ごせる工夫がされている。(コロナ禍の為パソコン画面と職員の聞き取りで記載)	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で移動しやすく、安全に生活できる場となっている。自立した生活ができるように目印を付けている。		